

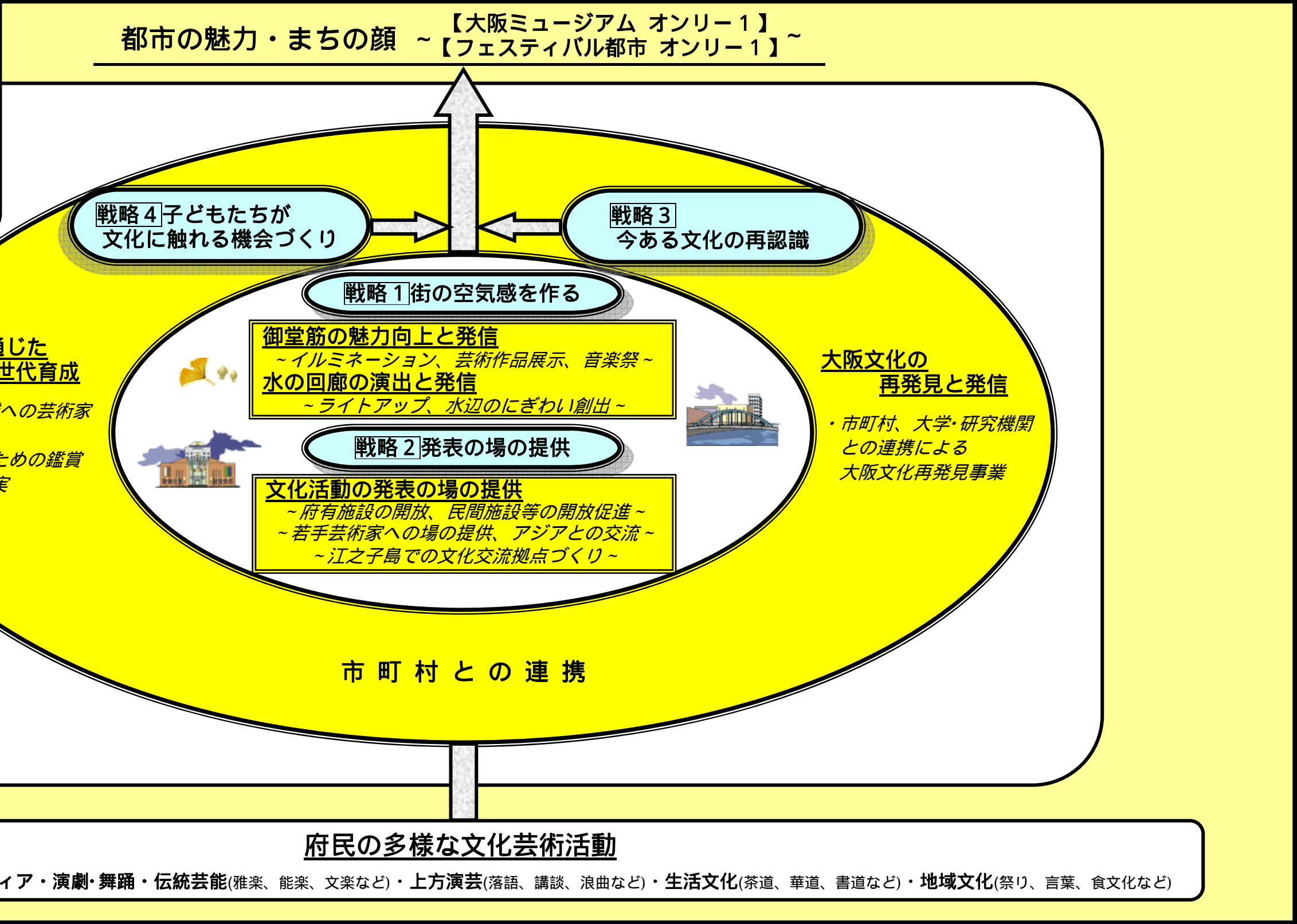
文化行政の戦略について

人が集い、文化が花開く大阪
～取り戻そう「誇り」、育てよう「息吹」～

文化都市としての大阪を国内外に発信
～広域行政圏としての発信力～

= 文化振興の意義 =

人々が、まちの歴史やアイデンティティを認識し、愛着と誇りをもつことができる。心の豊かさ、人間性を育み、人と人とのつながりや地域の活力を引き出す。文化は都市の魅力そのものであり、文化の振興は都市の再生につながる。



文化振興における大阪府の役割（案）

【府民の多様な文化芸術活動】

- 芸術（文学、音楽、美術、映像、メディア、演劇・舞踊など）
- 伝統芸能（雅楽、能楽、文楽など）
- 上方芸能（落語、講談、浪曲など）
- 生活文化（茶道、華道、書道など）
- 地域文化（祭り、言葉、食文化など）

【文化振興の意義】

人々が、まちの歴史やアイデンティティを認識し、**愛着と誇り**をもつことができる心の豊かさ、**人間性を育み**、人と人とのつながりや**地域の活力**を引き出す文化は都市の魅力そのものであり、文化の振興は**都市の再生**につながる。

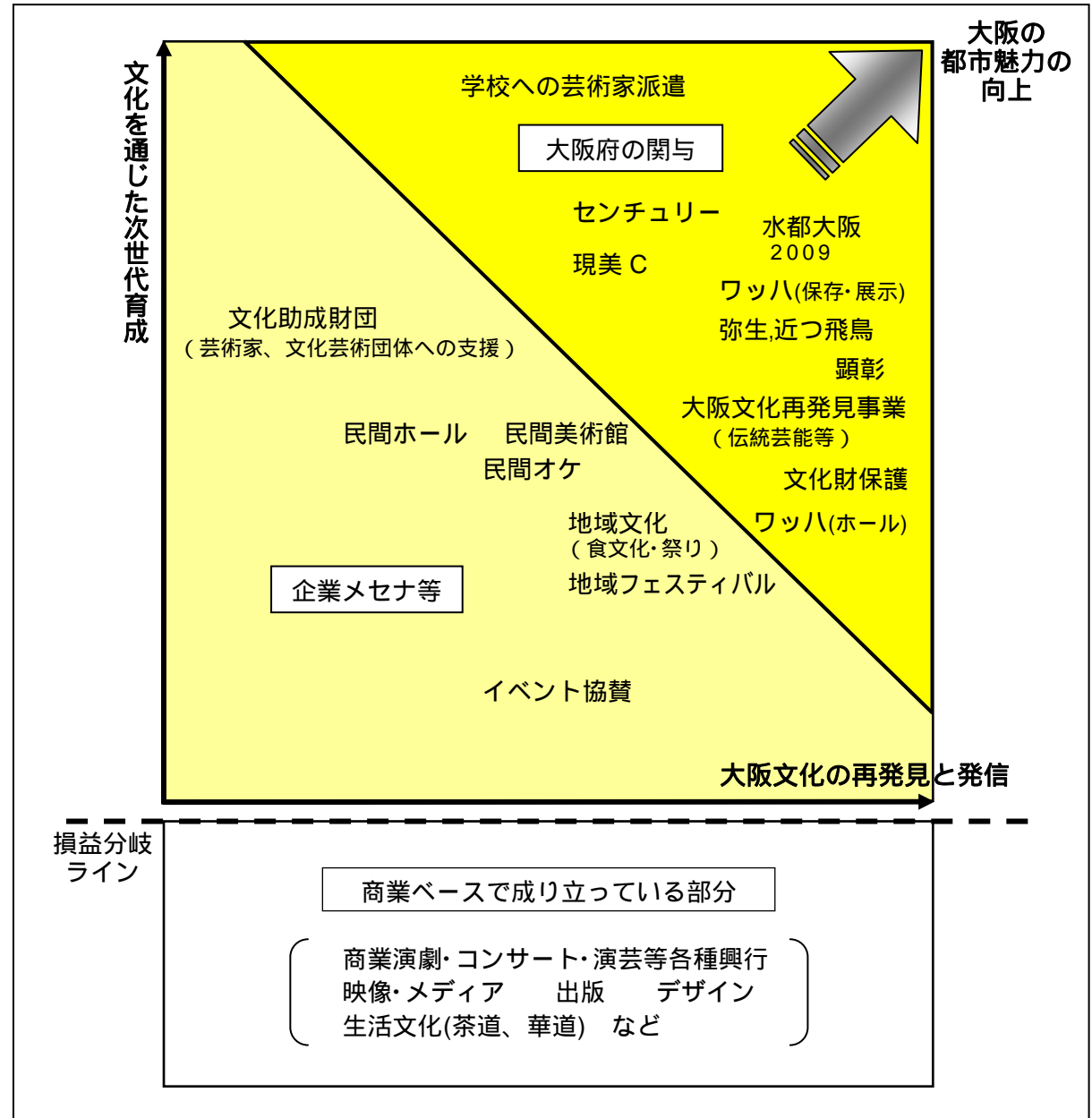
【文化振興によって実現する大阪のすがた】

- まち全体が府民に愛され、国内外から人々が集まり賑わう。
- 子どもたちが、夢に向かって取り組み、夢を実現し、様々な分野で活躍する。

【役割分担】

文化芸術活動は、自律的に行なうことが基本。府としては、

- ・民との協働により、都市戦略としての「フェスティバル都市」を実現する。
- ・大阪文化の発信や次世代育成など採算の取れない分野を支える。



大阪センチュリー交響楽団について

1 大阪センチュリー交響楽団の位置づけ

府民の多様化、高度化する音楽ニーズに応え、質の高い音楽鑑賞機会を提供するとともに、「人が集い文化が花ひらく大阪」の文化的シンボルとしての役割を果たす。

文化の情報発信

質の高い定期演奏会 年間 10 公演

大阪を代表する芸術団体として、質の高い鑑賞機会を今後とも提供する。

様々な依頼公演 年間 65 公演程度

びわ湖ホールオペラ、佐渡裕の第九など関西を代表する公演を担うほか、サンケイホールブリーゼの柿落としや中之島新線開通記念コンサート等、府内外で重要な役割を果たす。

文化を通じた次世代育成

次世代育成事業 年間 30 公演程度

小学生を対象にした体感型事業「タッチジオーケストラ」(16 公演・約 30 校)に加え、新たに中学 1 年生を対象にした芸術体験事業を 10 箇所(約 30 校)で実施する予定。

また、昨年発足したユースオーケストラ(13 歳~29 歳、90 名)を楽員が指導し青少年の成長を応援するなど(関西テレビ事業団助成事業)『音楽を通じた次世代育成事業』に重点的に取り組む。

その他社会貢献事業等 年間 15 公演程度

星空ファミリーコンサート(2 回)、病院コンサート(5 病院)、支援学校コンサートに加えて、ワンコインコンサート(府内 5 箇所)、御堂筋イルミネーションコンサート等を実施し『府民のオーケストラ』としての存在を高める。また、街角コンサート(商店街、博物館ほか)などの新たな事業展開を模索する。

2 支援のあり方

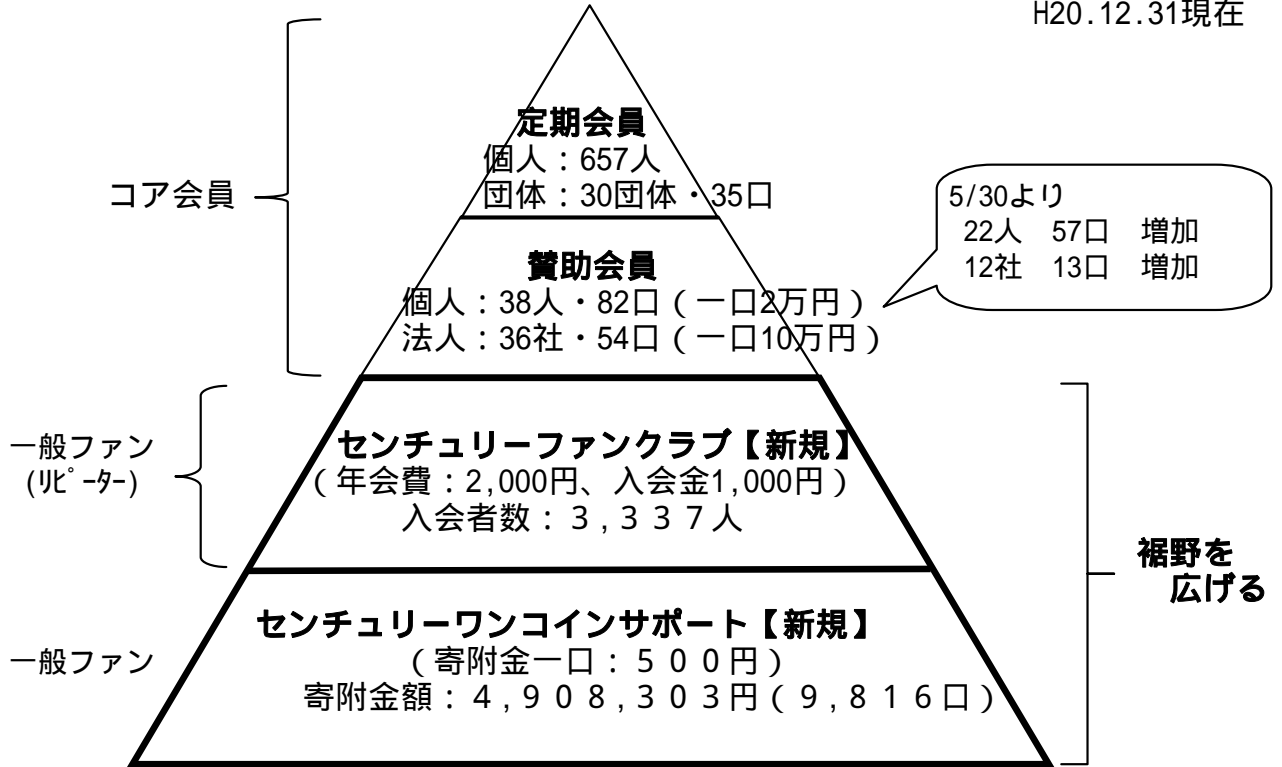
上記の事業を実施するには、質の高い演奏の提供、社会貢献事業を積極的に行える経営基盤が必要である。

楽団においては、演奏会の料金改定や経費節減に努めるとともに、幅広い府民からの支援スキーム構築のため積極的な PR 活動を行い、賛助会員の増(個人:22 人 57 口増、法人:12 社 13 口増)やファンクラブ 3,337 人、ワンコインサポート 9,816 口を獲得した(H20.12.31 現在)。

今後さらに、事業収入の拡大や経費節減・スポンサーの確保に努め、府の補助金依存率を低くすることを前提に、引き続き府のオーケストラとして支援を行う。

センチュリーサポート制度

H20.12.31現在



センチュリーファン数の推移(各月末)

